

第 57 回研究評価委員会に附議された評価報告書（案） に対する委員会コメントについて

第 57 回研究評価委員会（2018 年 12 月 10 日開催）に諮ったプロジェクト中間評価報告書 6 件について、委員会における討議を踏まえ、以下のコメントを附記することで確定した。

1. 高輝度・高効率次世代レーザー技術開発（中間評価）

後半に向けて、チャレンジングなテーマの議論を詰め、精査して進めていただきたい。また、レーザー加工プラットフォームの機能・役割とプロジェクト終了後の運営についても詳細な検討をいただきたい。

2. 革新型蓄電池実用化促進基盤技術開発（中間評価）

後半に向けて、他のプロジェクトとの棲み分けやシナジー効果の発揮、プロジェクト実施体制の最適化などマネジメントの充実に注力いただきたい。またコストを大きなターゲットとして開発者が明確に掲げ、実用化に拍車をかけていただきたい。

3. 植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発（中間評価）

バイオと IT を融合させた分野で、国際競争力を持ち、事業化に結び付く成果に向け積極的に進めていただきたい。また後半を進めるにあたり、成果の事業化は様々な形態が考えられるので、それを見据えて取組んでいただきたい。なお、ゲノム編集技術については、倫理面に配慮し、進められたい。

4. 超先端材料超高速開発基盤技術プロジェクト（中間評価）

今後の革新的材料開発のためには非常に重要なプロジェクトであり、事業化に向けては、研究開発目標が達成したにもかかわらず、実用化で出遅れたために我が国の利益が得られなかったということのないように、戦略的に進められたい。

5. 次世代火力発電等技術開発／②高効率ガスタービン技術実証事業（中間評価）

メンテナンスを含むトータルコストの視点からの市場性の評価が必要である。今後は 1700℃級に関してはユーザの開拓を視野に入れた開発、AHAT については事業化のフォローアップにそれぞれ注力していただきたい。

6. 地熱発電技術研究開発（中間評価）

2030 年エネルギーミックス実現に向けて、地熱発電がベースロード電源としての目標を達成できるように、技術戦略をつくりロードマップ等を整備して、マネジメントに注力いただきたい。